

団体名：農事組合法人 見山の郷交流施設組合

代表者：才脇芳喜

所在地：大阪府茨木市長谷

〔ポイント〕

平成13年11月設立 組合員数186名 出資口数266口（平成20年8月末現在）。見山地区都市農村交流活動推進委員会、茨木市観光協会、茨木市物産振興協会、茨木市商工会議所、茨木ローズライオンズクラブ等と連携して活動。

地産地消の取組の範囲茨木市を中心に取り組んでいるが、随時開催される府が関係する地産地消イベント等にも積極的に参加・協力

【活動内容】

- 1．平成元年から都市・農村交流推進活動を行ってきた事業推進母体、「見山地区都市農村交流活動推進委員会」（全組織を包含する交流活動の推進母体）が、地域住民自身がふるさと見山の良さや地域農業の大切さを再発見し、自信を深めることを目的に、朝市や収穫体験等のイベント等の交流活動を開始。
- 2．地域で生産された新鮮な農産物や、地場産大豆を使った「龍王みそ」「見山豆腐」、「山菜佃煮」といった地域産物をた農産加工品の提供を求める都市住民からの声が高まり、地域の見山生活改善グループ(昭和39年発足)の女性層を中心に、直売や農産加工活動の拠点施設建設の要望が出され、推進委員会はこの要望を受け、施設建設委員会を設置し、府、市の支援を得て施設建設に向けた検討を重ねる。
- 3．平成13年11月、地域住民・農業者が自らの発意で「農事組合法人見山の郷交流施設組合」を設立、施設建設に向け始動した。翌14年10月4日、都市農村交流施設「de 愛・ほっであいこり見山の郷」（以下、「見山の郷」）をオープン、以来約6年「見山の郷」を育て、発展へと導いてきた。
- 4．「見山の郷」は、地域住民、農業者が自らの意志と責任で意志決定し運営。
- 5．地域のブランド野菜「赤しそ」「見山大甘青とう」をはじめ、おおあま野菜や米など販売される農産物は、全て地域産。夏期を中心に、標高200～450mの山間地域特有の昼夜の温度較差を生かした野菜生産をベースに、冬期の施設栽培にも挑戦しており、農産物の売上は順調に伸びている。
- 6．新たな野菜等の販売に当たっては、栄養特性や調理法を紹介したPOPを配置し、消費者に重宝がられている。また旬の野菜やイベント情報を周知するため「見山の郷」だよりも発行。出荷者の氏名、写真を販売スペースに掲示。おいしい食べ方や旬のものを食べる大切さを消費者に伝えるなど「食育」の実践にも努めている。